

【本日の説教要旨】

「自分にふさわしく」

サムエル記上 17:38-50

マルコ 9:14-29

ダビデはイスラエルの二代目の王です。カナンの地に部族ごと定住したイスラエル 12部族を統一したイスラエル王国の確立者です。ユダの小さな村ベツレヘムの羊飼いのエッサイの子として誕生。悪霊に苦しむ初代王サウルの豎琴奏者として宮廷に引き立てられ、戦士としても頭角を現しました。その有能な働きと名声のゆえにサウロ王の嫉妬を招き、幾たびか命をねらわれて敵陣に亡命しました。

ダビデはサウルの死後ユダ国の王に、続いて北の10部族から請われてイスラエル国の王につき、二つの王国を兼務する王となりました。南北どちらにも属していなかった飛び地エブス人の町エルサレムを攻略して、これを二つの国の王都と定めて強大な国家を建設しました。ダビデの在位期間に、イスラエルの領土は最大となり、紅海からユーフラテス川まで人が住むことの出来る地域はすべてダビデの支配下となりました。

こうしてイスラエルはわずか数十年の間に、サウルによって部族から王制国家へ、ダビデによってパレスチナの統一と異民族をも支配する領土国家へと躍進しました。それは奇跡的な勝利と救いの時代であり、イスラエルにとって神による栄光の到来でした。後にイスラエルが滅亡の危機に瀕した時、神が再びダビデのような救済者＝メシアを遣わして、イスラエルを救うという期待が生まれました(イザヤ 9:5-6, ミカ 5:1-3)。これが「第二のダビデ」＝ダビデの子(子孫)としてのメシアの待望です。

「ペリシテの戦士ゴリアトと羊飼いの少年ダビデ」の物語は、こうしたダビデ帝国成立の時代を背景に生まれたダビデについての逸話でしょう。でもそれは単なるメルヘンでも成功物語でもなく、**明らかに告白されたヤハウエ信仰**です。ゴリアトは「無割礼のペリシテ人」「並外れた巨体を最強の武具で固めた戦士」です。ダビデは「生ける神の民」「石投げひもを持った羊を飼いの少年」です。

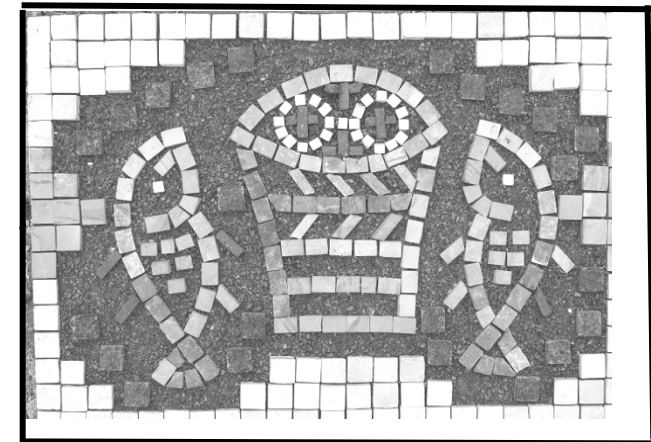
この戦いの勝負ははじめから分かっています。それをひっくり返したのが「神の戦い」です。サウルはダビデに自分の装束を着せ、青銅の兜と鎧を着けさせ、剣を持たせました。しかし、ダビデはそれを脱ぎ捨て、獣から羊を守るための石投げひもをもって敵に向かいました。この世の力の支配に打ち勝つ神の救いの出来事を物語る信仰の告白です。「親の七光りや知識や経歴」をぶら下げた人生は借り物です。「**借り物でない信仰**」、それが**神から一人ひとりに与えられた賜物**です。

自分にふさわしく、神から与えられた賜物を生かして、自分らしく生きるところに、**しんどいですが**人生の勝利が約束されているのではないのでしょうか。

日本キリスト教団浦河教会

週報

No.18 2022年7月31日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043

2022年7月31日 (No18)

主日礼拝

司会：高崎 晋 奏楽：松村宣恵

前奏 讃美歌 85 (二回) 祈り 聖書 サムエル記上 17章 38~50節 (旧約聖書 456頁) マルコ福音書 9章 14~29節 (新約聖書 78頁) 司会者 讃美歌 16 説教 「自分にふさわしく」 五味 一牧師 讃美歌 377 献金と感謝の祈り 主の祈り 62 頌栄 キリストの平和が (1.5) 祝禱 五味 一牧師 報告

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

主日礼拝 午後2時 礼拝堂
お茶の会 礼拝後 礼拝堂

【今週の集会】

一緒に聖書を読み祈る会 礼拝堂
8月3日(水)
ヨナ書 1章 1~16節 (旧約聖書 1445頁)
讃美歌 227、536

【次週の予定】

聖霊降臨節第10主日礼拝 礼拝堂
8月7日(日) 午後2時
聖書 民数記 11章 24~29節 (旧約聖書 232頁)
マルコ福音書 9章 38~41節 (新約聖書 80頁)
説教 「証人集団」 五味 一牧師
讃美歌 13 (1.3.5.6)、417

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 吉田公子 ④ 伊藤知之 ⑤ 山根耕平 ⑥ 岸澤恵美 ⑦ 高崎晋 ⑧ 山本潔 ⑨ 早坂潔 ⑩ 荻野仁

【集会統計】

Table with 3 columns: 集会名, 参加者, 献金. Rows: 主日礼拝 (7月24日) 17名 (子名) 13,560円; 祈禱会 (7月27日) 6名

《教会員等の動き》

宇野政勝教師(隠退) 25日慢性腎不全により死去されました。葬式は27日(水)親族と近親者のみで苦小牧弥生教会で執行されました。79歳。

♪本日の讃美歌♪

讃美歌 16 「われらの主こそは」。作詞はイギリスのジョサイア・コンダー(1789-1855)。詞はヨハネの黙示録 19章6節「わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のとどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。『ハレルヤ、全能者であり、わたしたちの神である主が王となられた』」にもとづくもの。作曲はイギリス人牧師レー・エフ・ハリソン(1748-1810)。

#讃美歌 377 「神はわかぜ」。

作詞作曲ともに宗教改革者マルティン・ルター(1483-1546)。この讃美歌はナチス・ドイツが若者たちを戦場へ、軍隊を前線へ送り出す軍歌として利用されました。「神はわれわれの味方なのだから、われわれは絶対に勝つ、ドイツは永遠に残る」と。しかし、この讃美歌は勝利の歌ではなく、慰めの歌です。苦難の中であって苦しみを負う者を慰めてくださる。それが詩編46の信仰です。

苦難の中こそ慰めがあり、この世で敗北と見える十字架こそ神の勝利です。わたしがこの世に勝つのではなく、キリストの愛が最後の勝利者であることに慰められるのです。

頌栄 キリストの平和が

- 1. キリストのへいわが わたしたちのこころのすみずみにまで ゆきわたりますように
5. キリストのゆるしが わたしたちのこころのすみずみにまで ゆきわたりますように